

第1回留学報告書

授業や課題に追われていると早いもので留学してから3ヶ月が経ちました。この期間で多くの知識を学ぶことができました。経済学の博士課程は最初の一年目にコア科目と呼ばれるミクロ経済学、マクロ経済学、そして計量経済学の授業を受けます。私の留学しているニューヨーク大学 (NYU) ではさらに数学の授業が必修になっております。そこでは一橋大学の修士課程では学ばなかったことに数多く触れることができ、刺激的な毎日を送ることができています。

マクロ経済学では客員のジョン・スタチュルスキー教授が最初の2ヶ月間を担当されました。日本のコースワークとはかなり異なった趣向の授業が行われ、基本的な内容をすでに知っている私にとってはむしろ刺激的でした。扱うトピックはそこまで違いはないのですが、その数学的厳密さが異なりました。私が日本でコアコースのマクロ経済学を受けていたときは数学的厳密性をほどほどにして、大学院のマクロ経済学の概念になれると言った印象でした。しかし、この授業では、マクロ経済学のモデルを状態空間 (State Space) とこの集合上の Self-mapping のペアである Dynamical System と捉え、この概念を中心にモデルの安定性、定常状態の一意性、定常状態間での比較静学を解析して行きました。経済学的理解の助けにはあまりならないような授業でしたが、マクロ経済学で有用な数学に触れることができた貴重な機会でした。

多くのことを学ぶことのできた別の例として、アリエル・ルービンシュタイン教授の意思決定理論 (Decision Theory) の講義があります。これはミクロ経済学の最初のパートでした。彼は意思決定を記述する選好関係を用いて標準的なコアのミクロ経済学のトピック (消費者理論、期待効用理論、社会的選択理論) を教えることにこだわっていました。扱うトピック自体は日本の修士課程で既習の内容でしたが、アプローチの方法が全く異なりました。一橋大学のミクロ経済学では、選好関係の話を導入部分である程度講義した後、効用関数を導入することで選好関係に制約をおき、分析を簡便化したうえで、消費者理論を学ぶという形でした。

ルービンシュタイン教授のアプローチにより、理解が鮮明になった例として、Indirect Utility Function という概念があります。それまではこの概念を相対価格と所得が与えられたもとで達成されうる最大の効用としか理解していませんでした。しかし、彼の講義では、相対価格と所得に対する選好関係が消費財に対するプリミティブな選好関係に起因し、間接効用関数はこの相対価格と所得に対する選好関係を表現している (represent) にすぎないと教えられました。相対価格と所得に対する選好関係の例えとして、より安い値段と高い所得のもとでの消費活動

の方が高い値段と低い所得でのもよりも満足度が高いというのは納得できると思います。その場合は前者の価格と所得の組み合わせの方を後者よりも選好するといえます。

このようにプリミティブな選好関係を一貫してあらゆる分析の中心として用いた授業を受けながら、ミクロ経済学の概念を数理モデルからではなく、より直感的、日常的な言葉から理解することができました。クラスメートの多くはこの授業は非常に理解しづらいと言っておりましたが、私はミクロ経済学の意思決定理論パートを選好関係という簡単な道具のみを用いて直感的に、数理的に厳密かつ簡潔に講義される教授の経済学観に感銘を受けました。

幸い、彼の試験で良い成績 (A) を残すことができました。A を取得したのは 30 人近いクラスの中で二人だけでした。ルービンシュタイン教授は直々にメールをくださり、面談する時間を設けてくださいました。試験当日よりもはるかに緊張した面談だったので、何を話したのか記憶があやふやですが、一つだけ覚えている言葉があります。「一番大事なことは博士論文だ。しかし、A を試験で取れたことは素晴らしいことだ。おめでとう。君には論理的に思考する能力が備わっている」。渡米以降、慣れない環境の中で勉強を続けていた自分にとってミクロ経済学の巨人からのこの言葉は大きな励みになりました。

こちらでの授業を受けて思うことは、日本できちんと大学院レベルの知識を取得しておくことがいかに大事かということです。日本で体系的にコアの三科目を学んだからこそ、それを土台にこちらの異なる趣向の授業を理解することができているからです。

結びとなりますが、このような新たな学びができているのも、御財団からのご支援があつてのものでございます。経済学の Ph.D. は他分野と異なり、研究ステージに進むのはまだ先です。ルービンシュタイン教授から言われた「一番大事な博士論文」を立派なものにするための土台作りとして、まずは今の授業を大切にしていきます。